環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.５６
編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
環境活動推進ﾁｰﾑ
電 話 043－246-2180
ＦＡＸ 043－246-6969

環境月間報告　～各地の環境フェアから～

船橋市環境フェア～楽しく賑やかに第１０回に～

船橋市環境フェア実行委員　　大西　優子

第１０回を迎えた船橋市環境フェアは、６月９～１０日と２日間にわたり船橋市中央公民館で行われました。スタート時は環境保全課主催で開催していましたが、第３回から実行委員会方式で行い実行委員長は市民団体から選出しています。参加団体は市民･事業者･行政で５３団体、来場者は２日間で約４７５０人でした。

今年のテーマは「行動しよう、今できることから」でした。環パちばからはストップ地球温暖化千葉推進会議が、パネル展示と子どもイベント広場に人力発電体験ミニミニ講座を出展しました。

昨年から始めた子どもイベント広場はとても好評で、拾い集めておいた木の実のブローチつくり・ごみ分別クイズ・ガラス工作・竹細工・買い物袋アート・かざぐるま作り・人力発電体験ミニミニ講座などに、２日で９００人近くが「自作物」を熱心に作り、誇らしげに持ち帰りました。児童ホームの先生がいろんな体験を子どもたちにさせられるからと連れてきたり、２日通ってかざぐるま作りをを進化させていった子どもなど、賑やかに飛び交う声に疲れも吹き飛ぶ感でした。

１０回目を記念して１０日には「環境とまちづくり」「省エネ～自然保護～環境教育支援について」講演会を行いましたが、２００名近くの参加があり勉強になったとの声が多々ありました。

短時間の豪雨に見舞われ野外イベントコーナーをかたづけるなど、ハプニングありましたが、無事終了いました。

その後行われた反省会では、各団体ばらばらの展示ではなく、船橋の環境を「見れば分かり考えられる」流れを作ってゆく努力をしようと話し合いました。

第３回『ちばし手づくり環境博覧会』開催

2007ちばし環境フェスティバル活動発表実行委員　桑波田　和子

６月５日（火）に、千葉市文化センターの市民サロンで、「ちばし手づくり環境博覧会」が開催されました。これは「ちばし環境フェスティバル2007」の一環として、環境月間の６月に開催し、今年で３年目となります。組織は、市民、企業、行政の３者からなる実行委員会方式で、千葉市環境調整課が事務局です。今年は新たに、平成18年度千葉市エコリーダー養成講座の卒業生２名が加わり、市民は各団体からの希望者と企業２社からの計16名の実行委員で、２月から準備を重ねてきました。

今年の参加団体は、33 団体（市民団体 24、事業所 9）で、参加者は 400 名近くでした。会場内は、所狭しという感じで賑わっていました。毎回会場が狭いということで、他の会場を検討したいという意見も実行委員から出ています。しかし、同日に講演会開催もあり集客のメリット、デメリットや、実行委員会が独立すること等課題もあり、今後の検討事項です。また、千葉市内で活動する環境グループの交流と市民の皆さんへの啓発などの場として、ひろがる方向にも検討していきたいと実行委員は願っています。

環パちばは、実行委員としてまた、出展団体ということで、第１回から参加してきました。今年の出展は、主に 18 年度の千葉市エコ体験スクールの報告と印旛沼をきれいにする活動、東京湾から花見川までのエコウオーキングマップなどの、活動紹介のパネル展示を行いました。千葉市民の水は印旛沼と利根川の水を飲んでいることから、水に対する関心がある方が多いように感じました。反省として、体験できるコーナーを設けたいと思いました。

１６万人一斉ゴミ拾いをめざしてーZEROCKI'N '07

横山　清美

7 月 15 日、16 日（海の日）JR 京葉線新浦安駅前の市民プラザ WAVE101 全館で(財)浦安市施設利用振興公社と市民団体 U-PROJECT の共催による「ZEROCKI'N '07」という学ぶ環境イベントが開催されました。日本国民１億３千万人一斉ゴミ拾いのスタートを 2008 年に浦安市民全員 16 万人でのゴミ拾いを目指しているU-PROJECTの企画を浦安・全国の環境団体、ミュージシャン、お笑い芸人などが参加し運営を支えるというものでした。未来の夢、それは子供達。まずは見て、聴いて、感じてほしい... という若者、親子連れをイベントで呼び込み、学んでもらうというのが趣旨でした。大ホールでは、有名歌手やバンドの演奏、パネルディスカッション、マイバッグデザインコンテストの募集をタレント神田うのさんによる記者会見という形で呼びかけました。これらの司会はベイエフエム・千葉テレビのパーソナリティーやアナウンサーがボランティアで交代でやっていました。

中ホールでは、「東京若手お笑いマラソン」が、小ホールでは、映画「不都合な真実」「１０７＋１～天国はつくるもの～」の上映が行われていました。またギャラリーでは、「浦安三番瀬クリーンアップ大作戦展」このクリーンアップが大ホール

の舞台前に飾ったゴミを提供しています。他に「JEAN トランクミュージアム」「UNEP 写真展」屋上緑化、風力発電、エコハウスなどの NPO・企業による展示で参加者が学んでもらうというものでした。

また、会場内には問題が貼られこの問題を解くと貝がらがもらえ、フリーマーケット会場でその貝がらで買い物が出来るという仕掛けもありました。子どもだけでなく大人も真剣に会場内の問題を解いている姿が印象的でした。

～印旛沼をきれいにする活動 2007 開始～
生きものがたくさんいたよ！！

7 月 8 日（日）手繰り川（佐倉市）での、印旛沼をきれいにする活動の一環である、夏休み親子体験活動『川の学校』を、行いました。

参加者はガールスカウト 84 団の親子、佐倉市内の小学生など総勢 37 名でした。内訳は子ども 21 名、大人 16 名(講師、スタッフ 4 名含む)です。ここ手繰り川での活動は今年で 4 年目となります。当初 1 年生だった子どもさんが 4 年生になり、活動を続けてきたことを聞いて、参加協力してきていただいたことへの感謝の気持ちがわきました。しかし、毎年同じ川で活動することは理想ですが、参加する子ども達が同じということで、「今年はこれ！」といった工夫が必要となってきました。そこで 2007 年は、自分のしかけを家で作り、当日持参して実際に川に仕掛け、生きものが捕まえることができるか？という体験活動を加えました。

8 日の朝 8 時 30 分に手繰り川の下志津橋に集合し、

簡単なスケジュールの説明後､講師の方に､仕掛けを入れるときのポイントなどについて、話を聞きました。その後、それぞれがここ！と思うところに仕掛を入れて、上流の水しらべに向かいました。ラッキーなことに仕掛けをしてすぐ、ヌマチチブが捕まり、当人はもちろん他の子ども達も１時間後の仕掛けを取り出すことへの期待感がわいてきました。

手繰り川の上流は、四街道市栗山で、住宅街の中にあります。COD は 20 と高く、ショウジョウトンボ、コシアキトンボが水路の上を飛んでいました。川の中や周りには、レジ袋、空き缶など落ちています。ゴミを捨てないでほしいものです。

いよいよ、仕掛をした下志津橋に到着です。COD は 8 と上流よりきれいでした。子ども達は仕掛に生きものが捕まったか？期待感いっぱいで引き上げてみました。ヌマチチブ、トウヨシノボリ、スジエビ

アメリカザリガニが入っていました。子ども達はますます元気が出て、川に入って生きものさがしをしました。網では、ハグロトンボのヤゴやドジョウなど捕まえました。昨年と比べると、トウヨシノボリの数が減ってきているようです。講師の新島先生は、他の川でも、トウヨシノボリやスジエビの数が減ってきているとのことでした。

午後からは臼井公民館へ移動して、捕まえた魚についての解説とスケッチです。今回は、全員が生きものを捕まえたので、イキイキとして、先生のお話も興味深く聞いています。

アンケートには、「川に入って気持ちよかった」、「生き物を捕まえられて嬉しかった」、「川のゴミは拾う」、「川をきれいにしたい」「シャンプーや洗剤を使いすぎない」「お皿を紙などで拭いてから洗う」などありました。印旛沼をきれいにするためには、先ず川を見て体験し、生きものとのふれあいを通して、水の大切さ、きれいにしたという願いが育つと思います。また親子で体験することで、共通の体験や思いを共有できます。

佐倉での活動は、今年で４年目となりました。ガールスカウトのリーダーにも今回は自主的に取り組んで頂きました。今後は、自立して活動を展開して欲しいと願っていますし、環パちばとしては、今後協力する方向で、印旛沼をきれいにする活動を展開していきたいと思います。また、この活動をひろく印旛沼流域に広げていきたいと思っています。　（文責　桑波田）

里山シンポジウム「里山と水循環」分科会

「水循環と生物多様性」
～湧水と生物の場をみて考えてみましょう～

里山と水循環分科会実行委員　千葉　智雄

第 4 回　里山シンポジウム全体会は、5 月 19 日に城西国際大学(東金市)で開催かれました。テーマは「里山となりわい」で、ますます広がりを見せています。分科会は 13 回開催されますが、その中の「里山と水循環分科会」について報告します。

日時：　平成１９年６月３０日（土）
会場：　午前：大藪谷津
　　午後：千葉市越智公民館

なお、午前の観察会に堂本知事が飛び入りで参加、泥にまみれながら参加者と一緒に観察を続けられた姿に、生物多様性に取り組まれる意気込みを感じました。

＜大藪池で湧水観察＞

大藪谷津湧水は、千葉市緑区誉田駅から車で十分程走った所にあります。住宅街を抜けると、大藪調整池がありますが、この池に注ぐ水が、大藪谷津の湧水です。馬蹄形の谷津は、湧水、谷津田、斜面林がコンパクトにまとまっていて、湧水がモコモコと湧き出る様子を真近に見ることの出来る貴重な自然資産です。

現地では、千葉大学の唐常源教授から具体的にわかりやすい説明があり、参加者からも質問がたくさんありました。

千葉県は、地下水の豊富な地域でしたが、これが湧き水だと感じさせる湧水は、都市化の中で消えてしまっています。貴重な湧水が枯れてしまわないように祈りたい気持ちです。

＜ビオトープ観察＞

湧水を利用して、「プロジェクトとけ」が保全活動を行っている「田んぼ」がありました。こじんまりした田んぼでしたが、稲が青々と育ち、レッドデーターリストの生き物もたくさんいて、生きものが豊かな場所でした。

ホタルの鑑賞会も開催され、地元の方も楽しみにしているということでした。ここで稲作をしている農家の方は、高齢だそうです。また、産業廃棄物の受け入れ場となる不安も抱えています。

湧水は硝酸性窒素が高い状況にあります。窒素を減らすため、生きものが豊かにいるためにも、湧水を利用し、稲作を続けて言って欲しいと思いました。

＜学集会と意見交換＞

午後は越智公民館で唐教授とプロジェクトとけの高山さんの講演があり、その後で参加者全員で意見交換を行いました。地元の方も参加され、大藪湧水を保全するための工夫や悩みを聞き、いずこも苦労しているとの思いを深くしました。また、県からは自然保護課、水質保全課、千葉市保全推進課と参加頂き、本音をお互いに話し合える場となりました。日本は自然崇拝の強い国ですが、マネー崇拝を賛美するような傾向も強くなってきており、水資源の保全も生物多様性の保全の努力も広がる一方、前途多難な雲行も感じました。

水道水にしても、化学薬品できれいになった、高度処理技術できれいになったといい、問題解決したような気持ちになりがちですが、生き物は水道水を飲んでいるわけではなく、生物多様性の観点からも、健康な水環境をつくることが第一であると思いました。

ひと際ひかる多古町住民の取り組み

カエルと子どもの声がこだまする山間の谷津田へ見事復元
その力で隣接地の産廃焼却炉の建設阻止へ

高橋　晴雄

時代を拓く桜宮自然公園の活動は千葉の誇り。千葉の先進。

里山での生業が困難になって一世代を経過した。その中で　カエルと子どもの声がこだまする風景は私たちの前からとうに姿を消している。私が住む四街道では、荒れすさんで行く谷津田　、すでに壊れ産廃まみれになった谷津田、もはや跡形もなくなってしまった谷津田、かろうじて残る谷津田、これが現実になっている。はるか昔から里山、里地　里海が典型的な展開を見せてきた房総半島の今の姿を示している。近視眼的な近代化によって命の回路ともいうべき里山がいま危機に瀕しているのである。

ところがどっこい再生に立ち上がった農民たちがいた「地権者当事者」が町行政住民との協働の力を引き出した。

それは房総半島のど真ん中成田国際空港にほど近い多古町は染井地区の９人の桜宮の地権者たちであった。２００１年に活動を開始した。2

０年間耕作放置された里山が見るも無残な不法放棄ゴミの山積地になり，篠竹のジャングルに覆われていたこと、かてて加えてその近くに産業廃棄物の焼却炉の建設が申請されていた。会の見識はただ反対するだけでなく谷津田をきれいにすることで不法投棄や焼却炉の建設をやめさせよ

うとしたことであった。谷津田の所有者が発起人になり山林所有者と話し合い協定を結び自然公園作りに着手したという。作る会のメンバーは目的を「生態系を守ること」におき、湧き水　豊かな水源地を守る。そのため水路の整備　除草剤を使わない冬期かん水、米ぬか肥料の田圃にするなどである。会の見識は　「住民参加」でことを進めて行ったことにも示される。町長も草刈に駆けつけたという。多くの住民が草刈機などを持って定期的に整備を続け今日に至っている。こうした中で　空に「サシバやカモの飛来」地に「シュレーゲルアオガエルやアカガエルの増殖」「カマキリ、カブトムシ、クワガタ」など１８２種の動植物が記録されるようになった。丸ごとビオトープとなって多くの住民や子供たちの「憩いの場　交流・自然体験の場」となってきている。

こうした活動は次第に全国からも注目されるようになり県の里山条例のモデルとして県と活動協定を結び、ついで２００６年環境省　読売新聞による「全国里地、里山３０選」に入選し、さらに農林省「田圃自然再生コンクール」に入選をすることになった。

私はさる７月１６日　桜宮自然公園会長の所さんからの要請で残土ネットの井村さんと当地を訪ねた。焼却炉予定地につながる道周辺（自然公園そのものの地なのだが）の草刈清掃につとめる人たちの姿があった。よもや県が全国から注目されるにいたったこの谷津田の隣に焼却炉建設の認可をしないと信じるが、それこそ千葉が恥場にならないようみんなで注目していきたい。今秋、多古町は栗山川に鮭の遡上が始まる前に６年越しの問題に決着と行かないものだろうか。

★6 月パートナーシップエコサロン★

挑戦！焼却ごみ 1/3 削減
～環境と資源、次世代のために今できること～

日時：6 月 28 日（木）　　午後 6 時 30 分～8 時 30 分
会場：千葉市市民活動センター　会議室
話題提供：鈴木　武則　氏　千葉市環境総務課　ごみ減量推進室長

千葉市では、千葉市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画を、策定しました。
計画期間は、平成 19 年～28 年度までで、真に市民･事業者･市の協働が必要とされます。
今回は、千葉市環境総務課の鈴木氏からの説明をお聞きしました。

現在の課題は、人口増による新たな、排出量の増加が懸念されること。ゴミ処理費用の抑制、焼却に伴う温室効果ガスの削減、老朽化が進む北谷津清掃工場の今後のあり方、市内唯一の最終処分場の延命が緊急の課題になっている。ちなみに、平成 16 年度の千葉市のごみ処理の現状は、総排出量が約４２万トン、これを積み上げると 40 メートル、マリンスタジアム１．６個分に相当し、市民一人一日あたりの排出量は、１．０３６ｇとなっている。

これらを解決するための戦略が、今年度策定した、「環境と資源、次世代のために今できること、～挑戦！　焼却込み１／３削減～」見据えて、新たな「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画である。

本計画は、徹底したごみの減量・再資源化により焼却ごみを１／３、重量にして約１０万トンを削減し、２清掃工場による処理体制の実現を目指す。

その結果、温暖化効果ガスの大幅な排出抑制により、環境負荷の低減が図られるとともに、清掃工場の建て替えや維持管理費の節約となる。

ここで一番大切なことは、この大きな目標に向かって、多くの市民・事業者がこの計画を真に理

解することで、また市行政はこの目的のために、啓発することと、計画の達成に向けて、市民・事業者、市の三者が一体となり、協働して初めて本計画の実現がみえてくるものである。

このために、本計画の目標の共有化のために以下の三つを行う。①より多くの市民・事業者が関心を寄せるＰＲの実施。②周知徹底のためのきめ細かな説明会等の実施、③「焼却ごみ１／３削減」推進体制づくり。そして、進行管理として、毎年度評価・見直しを行い、５年後に中間年度として、計画全体の評価と見直しを行う。この計画は、繰り返しではあるが、ごみの減量のみならず、温暖化効果ガスの大幅な排出抑制に役立つことで全員参加がもとめられている。千葉市の HP を訪ねていただければ幸いです。

（文責　広報部）

★8 月パートナーシップエコサロンご案内★

日　時：8 月 29 日(水)　　午後 6 時 30 分から
会　場：千葉市市民活動センター　会議室
テーマ：『企業の環境安全活動の考え方と活動事例』
話題提供：　江藤治敏 氏
環境パートナーシップちば
内　容：企業の環境報告書、hp、マスコミ記事、行政公表資料、その他出版物等の公知の事実を元に、企業の環境安全活動の考え方と、実際の活動事例もご紹介していただきます。
参加費：500 円（資料代）
申し込み問い合わせ：桑波田
Tel/fax：０４３－２５８－５４３７
e-mail：kuwahatak@hotmail.com

すずチイ～バ

ちばCO2CO2（こつこつ）ダイエットファミリーキャンペーン実施中

～おうちで地球温暖化防止にチャレンジ～

あっチィ～バ

地球温暖化は、人間だけでなく地球上のすべての生命にかかわる深刻な問題です。

千葉県の温室効果ガス排出量は、平成１４年で８１３７万８千トン、基準年（平成２年）に比べて９．６％もすでに増加しています。

このまま、特に対策をとらなかった場合、２０１０（平成２２）年には１２．９％も増加する見通しです。

特に家庭部門での CO2 排出量は、基準年（平成２年）に比べて３９％増加しており、日常の生活での省エネ行動の普及が大きな課題となっています。

地球温暖化を防止するために、私たちの日常生活での‘こつこつ’した取組を実践することで、地球温暖化の原因である二酸化炭素（ＣＯ２）を削減することができます。

千葉県内の地球温暖化を防止するため、家庭における二酸化炭素（ＣＯ２）排出の削減に挑戦してもらう『ちば CO2CO2（こつこつ）ダイエットファミリーキャンペーン』を実施しています。

夏休みを中心とした２ヶ月間（７～８月）、ご家族のみなさんで身近な電気・ガス・ガソリンなどの使用量の削減にチャレンジしてもらうもので、現在、県内で多くの団体や小学校に参加していただいています。参加は１ヶ月だけでも OK ですので、気軽にチャレンジしましょう！

団体で参加された方には苗木のプレゼントもあります。職場や地域の皆さんにもお声をかけて下さい。

※参加希望者には、「チャレンジシート」、小学生用には「ちば CO2CO2 ダイエット夏休み学習帳」を送付しますので、お気軽にお問い合わせください。

＜問い合わせ先・提出先＞
千葉県地球温暖化防止活動推進センター　TEL　043-246-2180
千葉県環境生活部環境政策課温暖化対策推進室　TEL　043-223-4139

G20ちば2008　～気候変動と持続可能な社会への閣僚級対話～記念事業
地球人みんなのエコロジーフェスティバル！！

～　エコメッセ2007inちば開催します！～

日時：2007年９月９日（日）　　10：00～16：30
場所：幕張メッセ国際会議場
出展団体：67（市民団体、企業、行政）
2007のみどころ：エコネコ近未来エコシティ（巨大パネル展示）
　　気象キャスターさんがやってくる！「シャープ・環境学習」
　　エコツアー（大学生のスタッフが子ども達を案内します）他
併催：STOP地球温暖化inエコメッセ2007・・「不都合な真実」2回上映（無料）・講演会
　　八都県市3R学生サミット・・・「さあしよう！　再使用（リユース）！」

エコメッセは、多くの人に環境問題を伝え、そして解決に向かっていっしょに行動する人の輪を大きくするために開催するものです。１９９６年に市民・企業・行政がちば（幕張新都心）に集い、連携・協力して始まり、今回で１２回目の開催になります。環パちばは事務局を担当しています。

今、地球が大変だ！と言われています。４６億年の地球の歴史で育まれた多様な生物の世界（生態系）が、約２０万年前に誕生した唯一つの種類であるヒトの活動、とくに産業革命以降の僅か２００年あまりの短い間の活動によって、急激に変化していることです。多くの生き物と同様に、ヒトの持続可能性が危ぶまれています。私たちは、これまでの人間社会のあり方を変えないといけないのではないでしょうか。

今こそ、環境問題の解決に向けて、多くの人が協力するときです。どうぞ、エコメッセの趣旨にご賛同いただき、皆様のご参加・ご協力をお願いします。　　（文責　広報部）

運営委員会だより

6月運営委員会議事録

日時：19年6月28日(木)午後4時～5時
場所：千葉市民活動センター会議室

報告事項

1）環境学習基本方針をつくろう会
2）ちばし環境フェスティバル活動発表出展
3）NPO協働提案申請書提出
4）印旛沼環境基金申請書提出
5）エコライフちば掲載
6）京葉地区ガールスカウト活動
7）エコマインド生受け入れ説明会参加
8）エコメッセ2007inちばの状況
9）印旛沼わいわい会議の状況

協議事項

1）だより56号について　（構成）
2）千葉市エコ体験スクールについて
3）千葉市千草台公民館講座について
4）6月パートナーシップエコサロン
5）8月のエコサロン
6）印旛沼をきれいにする活動
・7月8日　　たぐり川
7）エコメッセ出展について
8）千葉市市民活動センターへのパネル参加（8月）
9）水フォーラム・・当会は後援団体として参加。

お知らせコーナ

◆エコライフちば　NO.38 に、環パちばが紹介されました！！

市と市民をつなぐ環境情報紙「エコライフちば」（6月27日発行）の、みんなでエコロジーのページに環パちばが紹介されました。「エコライフちば」は、千葉市内の公共機関、自治会（班回覧）などに配布されています。内容は、会の目的や活動紹介が主です。3月に完成しました「東京湾から印旛沼まで　わたしのエコウオーキングマップ」の紹介も掲載され、市民の方から購入の申し込みがあります。

◆マスコミへ登場！

当会会員の広田　由紀江さんが､6月1日のNHK「朝のニュース」に出演されました。内容は、ソーラークッカーを使ってベランダで調理する姿の紹介でした。再放送は、8月、日程は未定だそうです。

「私はふだん、ソーラークッカーを使って調理をしたり、そのことを環境学習に役立てたりしています」とのこと。

◆ 千葉市民活動センターの登録団体紹介に、環パちばの活動紹介を8月4日から掲載いたします。

♡ 設立当初からの会員、井上一市様が、7月16日永眠されました。ご冥福をお祈りいたします。

★ 千葉市エコ体験スクール
（千葉市委託事業）
発見！たんけん！花見川！！

日時：8月28日（火）　9：00～16：00
場所：花見川　大和田排水機場
内容：水に親しみ、水を大切にきづく。
　　活性汚泥の実験
対象：千葉市内小学生
申し込み問い合わせ：桑波田
e-mail：kuwahatak@hotmail.com
Tel/fax：０４３－２５８－５４３７

★ 2007年度　第1回環境公開講座開催のご案内

演　題：「地球規模の水問題 バーチャル・ウォーターをご存知ですか？」

日　時：９月１日（土）午前10～12時
　　（受付開始　9:30～）
場　所：千葉市民会館　第5会議室
テーマ：「地球規模の水問題　バーチャル・ウオーターをご存知ですか？」
講　師：千葉県環境研究センター　水質環境研究室室長　小倉　久子氏
主　催：NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会
参加費：　500円（資料代）
◆定　員　３５名（先着順）
◆申込先　NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会
　　FAX　043-489-8465
EC千葉事業部　E-mail winbludon@yahoo.co.jp

広報部より
※皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。特に団体の方の活動紹介などの原稿を、「だより」に掲載いたします
担　当：広田　Tel&fax：047-381-8163　Mail：　hirotayukipon@jcom.home.ne.jp

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団　環境技術部
　　環境活動推進ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　FAX:043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872

千葉県環境財団　環境技術部　環境活動推進ﾁｰﾑ気付

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人1,000円　団体2,000円　賛助会員5,000円		